

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成 31 年 月 日

事業所 ソレイユキッズ津

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8		指導訓練室は十分なスペースが確保されている 活動によって、広すぎる場合はパーテーションなどで区切っている	子どもによっては広すぎて落ち着かない様子が見られることもあるため、子どもの様子に合わせてスペースを作っていく
	2 職員の配置数は適切である	7	1	職員配置数は適切であるが、必要に応じて配置数を増やしている	職員配置数は適切であるが、日によって少ないと感じることもあるため、ゆとりのある職員配置数を確保していきたい
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7	1	限られた環境の中で、できる限り構造化や視覚支援を用いて、子どもたちにわかりやすいよう配慮している	今後更にわかりやすく構造化された環境を作っていく 入り口だけ段差があるため、今後検討していきたい
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	1	毎日活動前に清掃を行っており清潔に保たれている 運動をするため、けがをしないようカーペットなど設置している	更に、居心地の良い環境づくりを目指していきたい
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	1	常勤・非常勤に関わらず定期的に週に1回職員間で話し合いの場を設けている	よりPDCAサイクルに職員が参画できるよう、話し合いの場を週2回に増やしていきたい
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	1	保護者アンケートより保護者の意向を把握し、業務改善に努めている	保護者アンケートだけではなく、送迎時、面談などからも保護者が意見を伝えやすい雰囲気を作ることにより意向を把握し、業務改善につなげていきたい
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8		ホームページで公開している	今後も年1回、アンケートを実施し、評価を公開していく
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		8		今後、検討していきたい
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8		週に1~2回、必ず内部研修、支援会議を行い、適宜外部研修にも参加し、専門性の向上に努めている	今後、より多くの外部研修に参加できるようにしていく
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8		相談支援専門員と連携を図り、子どもや保護者との面談を通して得られたニーズを分析し、児童発達支援計画の作成を行っている	様々な情報を基に、子どもの主な課題に対する支援を、保護者と一緒に考えていく
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8		項目に分かれた標準化されたアセスメントツールを使用し、より子どもの適応行動の状況を把握できるようにしている	アセスメントツールを活用し、必要に応じて項目や活動の見直しを行い、個々に合わせた適切な支援へとつなげていく
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7	1	児童発達支援ガイドラインに基づき一人一人の子どもの発達段階や状況により必要な支援を選択し、その上で具体的な支援内容を設定している	児童発達支援ガイドラインに基づく考え方や具体的な支援のあり方については、不十分さを感じているところもある 今後、ガイドラインの支援内容の理解を深め、さらに具体的な支援内容についてわかりやすく提示できるようにしていく
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8		個々の児童発達支援計画に基づき支援していく	子ども一人一人の児童発達支援計画に基づき、職員、保護者で共通理解を図り、支援を行っている
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	7	1	年間計画を立て、担当職員を中心にチームで、運動プログラムは1か月ごと、手先を使った活動は1週間ごとに立案している	ミーティングの機会を増やし、チームで話し合っより良い立案ができるようにしていく
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8		運動プログラムについては3週間で変更し、残り1週はエアートランポリンを使った活動を行っている 手先を使った活動は、1週間ごとに内容を変えそれぞれの課題を決めて行っている	子どもたちの実態に応じたプログラムを設定し、経験を通して興味、関心の拡大へと繋げていきたい
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	8		相談支援専門員との連携やアセスメントツールを活用し、児童発達支援計画を作成している	子どもの実態に応じて、個別活動、集団活動を組み合わせていく
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	1	利用する子ども、活動内容、支援の流れ、職員の役割分担の確認を行い、共通理解をしている	子どもの通所人数、活動内容に応じた職員配置、利用する教材を含め、打ち合わせを行っているが、全員の参加は難しいこともある ホワイトボードを活用して、情報共有していきたい
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	1	終礼をしてその日の支援の振り返りや連絡事項などの確認を行い、職員同士情報共有しながら支援の記録も行っている	支援の振り返り、子どもの姿、連絡事項など共通理解を深めているが、全員参加は難しい ホワイトボードを活用しながら情報共有を図っていく
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8		毎回支援記録を取り見直すことで、子どもの成長や取り巻く環境の変化に合わせて支援内容や方法を検討している	日々の支援記録を基に、会議などでの資料として活用している 今後も、児童発達支援計画の検証、改善のできる体制を継続していきたい
	20 定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8		定期的な面談を通してモニタリングを行い、支援の達成度や満足度などを把握し、支援の方向性の確認を行っている	保護者と、子どもの成長を確認するとともに、見直しをすることでより子どもの実態に沿った支援ができるようにしていく

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8		児童発達管理責任者がサービス担当者会議に参加し、利用計画書を基に他事業所と情報共有をしながら、サービス等利用計画の策定への情報提供を行っている	今後、子どもの状況に精通した担当職員なども一緒に参加することで、より一層の充実を図る	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7	1	あまり連携が取れていない	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関との連携した支援はまだあまりできていないため、今後、連携を取っていききたい	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている					
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている					
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	1	保育所や認定こども園、幼稚園との間で、相互に見学に行くなど、支援内容の情報共有と相互理解を図っている	利用者全ての通所(園)先との間での情報共有ではないため、今後更に、情報共有と相互理解を広げていきたい	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	1	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解はまだない。保護者を通して伝えることはある	今後連携を取り、支援内容等の情報共有と相互理解を図っていききたい	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8		他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関を見学したり、研修に参加したりして助言を受け連携を図っている	更に連携を深めていきたい	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	5	地域交流については、個別の活動を主にしているため、指導時間の中での実施は難しい	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会はまだないため、今後交流していききたい	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5	3	参加可能な限り出席している	どのように参加できるかがわからないため、今後ネットワークを広げて参加していく	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	1	連絡帳や送迎時に伝え合いのように努めているが、あまり話せる時間がない時もある	今後共通理解ができるような時間が、設けられるよう努めていく	
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	8		家庭で取り組みやすい方法を保護者と一緒に考え、提供している。応用行動分析学を用いた支援、アンガーマネジメント(書式作成)、フローチャートによるSSSTのシートの利用などにより家庭支援を行っている	今後、更に保護者向け勉強会、研修などを計画し開催していききたい	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	1	契約時、詳細につき説明を行っている	時々周知されていないと感じることがあるため、その都度丁寧に説明を行っていく	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8		定期的に面談を行い、児童発達支援計画を示しながらわかりやすく支援内容について説明し、同意を得ている	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容についても、今後保護者に説明していききたい	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	1	定期的に面談を行い、保護者に対して相談及び助言を行っている	定期的に相談に応じてはいるが、子ども、保護者の様子によって必要と感じたときには適時行っていききたい	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7	1	定期的に茶話会を実施し、交流の場としても提供し、保護者同士の交流を支援している	今後、より参加しやすい日時の開催を計画していく	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7	1	苦情・相談窓口の詳細は、契約書の重要事項説明書に記載している。苦情・相談が寄せられた場合は、迅速かつ適切に対応している	対応については職員で共通理解を図りながらすすめていききたい	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	1	行事予定は、毎月カレンダーを配布し、活動内容は週に一度連絡ノートに貼って伝えている	今後は定期的な会報の発行も検討していく	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	8		個々に個別ファイルを作成し、使用時以外は鍵付きの棚に保管することで外部に情報が漏れないように管理している。不要となった個人情報に関しては、適時シュレッダーにかけるなどの対応を徹底することで漏れないように取り組んでいる	個人情報の取り扱いについては、引き続き周知徹底を図っていく	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	1	ノートを活用し、意思の疎通や情報提供を行っている	子どもにとってもよりわかりやすくするために、視覚的にも知らせていきたい	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	5	オープン当初、地域住民を招待したが、その後は行っていない。自治会の組織に加入し地域住民と交流を図っている	今後、地域住民を招待し、開かれた事業運営を図っていききたい	

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6	2	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に配布している	保護者への周知が十分に実施できていない現状があるため、今後は非常時のマニュアルを事業所内に掲示し、来所した際にいつでも見ることができるようにしていく
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	1	毎月、子どもたちと一緒に避難訓練を実施している	今後、地域の消防署、警察署の協力、アドバイスを頂きながらすすめていきたい
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	8		契約時に子どもの疾病や服薬状況等を把握している。てんかんについては保護者からどのような時にどのような状態になるのか聞き取りをし、職員で共通理解している。また保護者からてんかん時の動画も見せてもらっている。連絡先やその後の対応についても保護者と確認している	より詳細を把握できるよう、アセスメントツールの変更を検討する
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	3	契約時にアレルギーの検査結果や保護者からの聞き取りを行い、除去食を確認している。アレルギー表を作成しいつでも確認できる場所に貼っている。アレルギーがある場合は、一斉除去している	食事提供はない為、医師の指示書での対応はしていないが、保護者から聞き取りを行っている
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	5	終礼や職員会議でヒヤリハット事例について、共通理解を図っている	ヒヤリハット事例集として、今後作成していく
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	2	職場内障害者虐待防止法研修冊子を使って読み合わせを行っている	チェックリストの作成、実施、虐待防止委員会の設置をする。定期的にチェックを行うことで改善、防止に取り組んでいく
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7	1	現在、身体拘束は行っていない。やむを得ず実施する場合は保護者への確認や説明なども確実に実行し支援計画に記載していく	今後、検証し必要がある際は、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載していく

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成 31 年 月 日

事業所名 ソレイユキッズ津

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8		活動によって、広すぎる場合はパーテーションなどで区切っている	子どもによっては広すぎて落ち着かない様子が見られることもあるため、子どもの様子に合わせてスペースを作っていく
	2 職員の配置数は適切である	7	1	職員配置数は適切であるが、必要に応じて配置数を増やしている	職員配置数は適切であるが、日によって少ないと感じることもあるため、ゆとりのある職員配置数を確保していきたい
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7	1	指導訓練室については、タイルカーペットを敷き詰めてあり大きい段差はない	入口のみ段差があるため、今後検討していきたい
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	1	常勤・非常勤に関わらず定期的に週に1回職員間で話し合いの場を設けている	よりPDCAサイクルに職員が参画できるよう、話し合いの場を週2回に増やしていきたい
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	1	保護者アンケートより保護者の意向を把握し、業務改善に努めている	保護者アンケートだけではなく、送迎時、面談などからも保護者が意見を伝えやすい雰囲気を作ることでより意向を把握し、業務改善につなげていきたい
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8		ホームページで公開している	今後も年1回、アンケートを実施し、評価を公開していく
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		8		今後、検討していきたい
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8		週に1~2回、必ず内部研修、支援会議を行い、適宜外部研修にも参加し、専門性の向上に努めている	今後、より多くの外部研修に参加できるようにしていく
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8		相談支援専門員と連携を図り、子どもや保護者との面談を通して得られたニーズを分析し、児童発達支援計画の作成を行っている	様々な情報を基に、子どもの主な課題に対する支援を、保護者と一緒を考えていく
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8		項目に分かれた標準化されたアセスメントツールを使用し、より子どもの適応行動の状況を把握できるようにしている	アセスメントツールを活用し、必要に応じて項目や活動の見直しを行い、個々に合わせた適切な支援へとつなげていく
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	7	1	年間計画を立て、担当職員を中心にチームで、運動プログラムは1か月ごと、手先を使った活動は1週間ごとに立案している	ミーティングの機会を増やし、チームで話し合っより良い立案ができるようにしていく
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8		運動プログラムについては3週間変更し、残り1週はエアートランポリンを使った活動を行っている 手先を使った活動は、1週間ごとに内容を変えそれぞれの課題を決めて行っている	子どもたちの実態に応じたプログラムを設定し、経験を通して興味、関心の拡大へと繋げていきたい
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	1	平日用プログラム、休日、長期休暇用プログラムを設定し、それぞれの課題を決めて支援している	更にきめ細やかな設定ができるよう、職員間で話し合っしていきたい
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8		相談支援専門員との連携やアセスメントツールを活用し、児童発達支援計画を作成している	子どもの実態に応じて、個別活動、集団活動を組み合わせしていく
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	1	利用する子ども、活動内容、支援の流れ、職員の役割分担の確認を行い、共通理解をしている	子どもの通所人数、活動内容に応じた職員配置、利用する教材を含め、打ち合わせを行っているが、全員の参加は難しいこともある ホワイトボードを活用して、情報共有していきたい
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	1	終礼にてその日の支援の振り返りや連絡事項などの確認を行い、職員同士情報共有しながら支援の記録もしている	支援の振り返り、子どもの姿、連絡事項など共通理解を深めているが、全員参加は難しい ホワイトボードを活用しながら情報共有を図っていく
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8		毎回支援記録を取り見直すことで、子どもの成長や取り巻く環境の変化に合わせて支援内容や方法を検討している	日々の支援記録を基に、会議などでの資料として活用している 今後も、児童発達支援計画の検証、改善のできる体制を継続していきたい
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8		定期的な面談を通してモニタリングを行い、支援の達成度や満足度などを把握し、支援の方向性の確認を行っている	保護者と、子どもの成長を確認するとともに、見直しをすることでより子どもの実態に沿った支援ができるようにしていく	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	7	1	一日のプログラムの中で、ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	地域交流については、なかなか交流が図れないため、今後交流を検討していきたい	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8		児童発達管理責任者がサービス担当者会議に参加し、利用計画書を基に他事業所と情報共有をしながら、サービス等利用計画の策定への情報提供を行っている	今後、子どもの状況に精通した担当職員なども一緒に参加することで、より一層の充実を図る
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7	1	在籍校に行き、送迎時での注意事項や下校時刻を聞き、顔写真の載せた職員一覧表やチラシなどを学校に渡している 行事予定など、迎えに行った際に直接聞いている	今後、より年間計画など詳しい情報を共有できるようにしていきたい
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	7	1	児童発達支援事業所との間では、情報共有と相互理解ができている。保護者からの聞き取りにより情報は把握している	まだ就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園等との間での連携は取れていないため、今後連携を取れるよう図っていく
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		8	まだ該当者なし	今後、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合は、それまでの支援内容等の情報を提供していく
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8		児童発達支援センターや発達障害支援センター等の専門機関を見学したり、研修に参加したりして助言を受け連携を図っている	更に連携を深めていきたい
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		8	地域交流については、小集団での活動を主に行っているため、指導時間の中での実施は難しい	放課後児童クラブや児童館との交流、障がいのない子どもとの交流や、障がいのない子どもと活動する機会はまだまだないため、今後交流していきたい
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	7	1	参加可能な限り出席している	どのように参加できるかがわからないため、今後ネットワークを広げて参加していく
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	1	連絡帳や送迎時に伝え合いのように努めているが、あまり話せる時間が無い時もある	今後共通理解ができるような時間が、設けられるよう努めていく
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	7	1	家庭で取り組みやすい方法を保護者と一緒に考え、提供している。応用行動分析学を用いた支援、アンガーマネジメント(書式作成)、フローチャートによるSSTのシートの利用などにより家庭支援を行っている	今後、更に保護者向け勉強会、研修などを計画し開催していきたい
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	1	契約時、詳細につき説明を行っている	時々周知されていないと感ずることがあるため、その都度丁寧に説明を行っていく
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	1	定期的に面談を行い、保護者に対して相談及び助言を行っている	定期的に相談に応じてはいるが、子ども、保護者の様子によって必要と感じたときには適時行っていきたい
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7	1	定期的に茶話会を実施し、交流の場としても提供し、保護者同士の交流を支援している	今後、より参加しやすい日時の開催を計画していく
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7	1	苦情・相談窓口の詳細は、契約書の重要事項説明書に記載している。苦情・相談が寄せられた場合は、迅速かつ適切に対応している	対応については職員で共通理解を図りながらすすめていきたい
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	1	行事予定は、毎月カレンダーを配布し、活動内容は週に一度連絡ノートに貼って伝えている	今後は定期的な会報の発行も検討していく
	35	個人情報に十分注意している	8		個々に個別ファイルを作成し、使用時以外は鍵付きの棚に保管することで外部に情報が漏れないように管理している。不要となった個人情報に関しては、適時シュレッダーにかけるなどの対応を徹底することで漏れないように取り組んでいる	個人情報の取り扱いについては、引き続き周知徹底を図っていく
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	1	ノートを活用し、意思の疎通や情報提供を行っている	子どもにとってもよりわかりやすくするために、視覚的にも知らせていきたい
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6	2	オープン当初、地域住民を招待したが、その後は行っていない。自治会の組織に加入し地域住民と交流を図っている	今後、地域住民を招待し、開かれた事業運営を図っていく

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に配布している	保護者への周知が十分に実施できていない現状があるため、今後は非常時のマニュアルを事業所内に掲示し、来所した際にいつでも見ることができるようしていく
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	3	毎月、子どもたちと一緒に避難訓練を実施している	今後、地域の消防署、警察署の協力、アドバイスを頂きながらすすめていきたい
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	2	職場内障害者虐待防止法研修冊子を使って読み合わせを行っている	チェックリストの作成、実施、虐待防止委員会の設置をする。定期的にチェックを行うことで改善、防止に取り組んでいく
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	8		現在、身体拘束は行っていない やむを得ず実施する場合は保護者への確認や説明なども確実に実行し支援計画に記載していく	今後、検証し必要がある際は、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載していく
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	2	契約時にアレルギーの検査結果や保護者からの聞き取りを行い、除去食を確認している アレルギー表を作成しいつでも確認できるところに貼っている アレルギーがある場合は、一斉除去している	食事提供はない為、医師の指示書での対応はしていないが、保護者から聞き取りを行っている
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	2	終礼や職員会議でヒヤリハット事例について、共通理解を図っている	ヒヤリハット事例集として、今後作成していく

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成 31年 月 日

事業所名 ソレイユキッズ津 NeO

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4		指導訓練室は十分なスペースが確保されている 活動によって、広すぎる場合はパーテーションなどで区切っている	子どもによっては広すぎて落ち着かない様子が見られることもあるため、子どもの様子に合わせてスペースを作っていく
	2	職員の配置数は適切である	4		職員配置数は適切であるが、必要に応じて配置数を増やしている	職員配置数は適切であるが、日によって少ないと感じることもあるため、ゆとりのある職員配置数を確保していきたい
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4		限られた環境の中で、できる限り構造化や視覚支援を用いて、子どもたちにわかりやすいよう配慮している	今後更にわかりやすく構造化された環境を作っていく 入り口とトイレに段差があるため、今後検討していきたい
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4		毎日活動前に清掃を行っており清潔に保たれている 運動をするため、けがをしないようカーパー・マットなど設置している	更に、居心地の良い環境づくりを目指していきたい
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4		常勤・非常勤に関わらず定期的に週に1回職員間で話し合いの場を設けている	よりPDCAサイクルに職員が参画できるよう、話し合いの場を週2回に増やしていきたい
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4		保護者アンケートより保護者の意向を把握し、業務改善に努めている	保護者アンケートだけではなく、送迎時、面談などからも保護者が意見を伝えやすい雰囲気を作ることにより意向を把握し、業務改善につなげていきたい
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4		ホームページで公開している	今後も年1回、アンケートを実施し、評価を公開していく
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	2		今後、検討していきたい
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4		週に1~2回、必ず内部研修、支援会議を行い、適宜外部研修にも参加し、専門性の向上に努めている	今後、より多くの外部研修に参加できるようにしていく
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4		相談支援専門員と連携を図り、子どもや保護者との面談を通して得られたニーズを分析し、児童発達支援計画の作成を行っている	様々な情報を基に、子どもの主な課題に対する支援を、保護者と一緒に考えていく
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4		項目に分かれた標準化されたアセスメントツールを使用し、より子どもの適応行動の状況を把握できるようにしている	アセスメントツールを活用し、必要に応じて項目や活動の見直しを行い、個々に合わせた適切な支援へとつなげていく
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4		児童発達支援ガイドラインに基づき一人一人の子ども達の発達段階や状況により必要な支援を選択し、その上で具体的な支援内容を設定している	児童発達支援ガイドラインに基づき考え方や具体的支援のあり方については、不十分さを感じているところもある 今後、ガイドラインの支援内容の理解を深め、さらに具体的な支援内容についてわかりやすく提示できるようにしていく
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4		個々の児童発達支援計画に基づき支援していく	子ども一人一人の児童発達支援計画に基づき、職員、保護者で共通理解を図り、支援を行っていく
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	4		年間計画を立て、担当職員を中心にチームで、運動プログラムは1か月ごと、手先を使った活動は1週間ごとに立案している	ミーティングの機会を増やし、チームで話し合い、より良い立案ができるようにしている
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4		運動プログラムについては3週間で変更し、残り1週はエアートランポリンを使った活動を行っている 手先を使った活動は、1週間ごとに内容を変えそれぞれの課題を決めて行っている	子どもたちの実態に応じたプログラムを設定し、経験を通して興味、関心の拡大へと繋げていきたい
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	4		相談支援専門員との連携やアセスメントツールを活用し、児童発達支援計画を作成している	子どもの実態に応じて、個別活動、集団活動を組み合わせる
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4		利用する子ども、活動内容、支援の流れ、職員の役割分担の確認を行い、共通理解をしている	子どもの通所人数、活動内容に応じた職員配置、利用する教材を含め、打ち合わせを行っているが、全員の参加は難しいこともある ホワイトボードを活用して、情報共有していきたい
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4		終りにてその日の支援の振り返りや連絡事項などの確認を行い、職員同士情報共有しながら支援の記録も行っている	支援の振り返り、子どもの姿、連絡事項など共通理解を深めているが、全員参加は難しい ホワイトボードを活用しながら情報共有を図っていく
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4		毎回支援記録を取り見直すことで、子どもの成長や取り巻く環境の変化に合わせて支援内容や方法を検討している	日々の支援記録を基に、会議などでの資料として活用している 今後も、児童発達支援計画の検証、改善のできる体制を継続していきたい
20	定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4		定期的な面談を通してモニタリングを行い、支援の達成度や満足度などを把握し、支援の方向性の確認を行っている	保護者と、子どもの成長を確認するとともに、見直しをすることでより子どもの実態に沿った支援ができるようにしていく	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4		児童発達管理責任者がサービス担当者会議に参加し、利用計画書を基に他事業所と情報共有をしながら、サービス等利用計画の策定への情報提供を行っている	今後、子どもの状況に精通した担当職員などと一緒に参加することで、より一層の充実を図る
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている			あまり連携が取れていない	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関との連携した支援はまだあまりできていないため、今後、連携を取っていききたい
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている			保育所や認定こども園、幼稚園との間で、相互に見学に行くなど、支援内容の情報共有と相互理解を図っている	利用者全ての通所(園)先との間での情報共有ではないため、今後さらに、情報共有と相互理解を広げていきたい
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4		移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解はまだない。保護者を通して伝えることはある	今後連携を取り、支援内容等の情報共有と相互理解を図っていききたい
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4		他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関を見学したり、研修に参加したりして助言を受け連携を図っている	更に連携を深めていきたい
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	3	地域交流については、個別の活動を主にしているため、指導時間の中での実施は難しい	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会はまだまだないため、今後交流していききたい
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4		参加可能な限り出席している	どのように参加できるかがわからないため、今後ネットワークを広げて参加していく
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4		連絡帳や送迎時に伝え合えるように努めているが、あまり話せる時間がない時もある	今後共通理解ができるような時間が、設けられるよう努めていく
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4		家庭で取り組みやすい方法を保護者と一緒に考え、提供している。応用行動分析学を用いた支援、アンガーマネジメント(書式作成)、フローチャートによるSSTのシートの利用などにより家庭支援を行っている	今後、更に保護者向け勉強会、研修などを計画し開催していきたい
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4		契約時、詳細につき説明を行っている	時々周知されていないと感じることがあるため、その都度丁寧に説明を行っていく
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4		定期的な面談を行い、児童発達支援計画を示しながらわかりやすく支援内容について説明し、同意を得ている	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容についても、今後保護者に説明していききたい
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4		定期的な面談を行い、保護者に対して相談及び助言を行っている	定期的に相談に応じてはいるが、子ども、保護者の様子によって必要と感じたときには適時行っていききたい
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	2	開所一年未満のため、まだ行っていない	今後、定期的な茶話会の開催を予定している
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4		苦情・相談窓口の詳細は、契約書の重要事項説明書に記載している。苦情・相談が寄せられた場合は、迅速かつ適切に対応している	対応については職員で共通理解を図りながらすすめていききたい
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4		行事予定は、毎月カレンダーを配布し、活動内容は週に一度連絡ノートに貼って伝えている	今後は定期的な会報の発行も検討していく
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	4		個々に個別ファイルを作成し、使用時以外は鍵付きの棚に保管することで外部に情報が漏れないように管理している。不要となった個人情報に関しては、適時シュレッダーにかけるなどの対応を徹底することで漏れないように取り組んでいる	個人情報の取り扱いについては、引き続き周知徹底を図っていく
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4		ノートを活用し、意思の疎通や情報提供を行っている	子どもにとってもよりわかりやすくするために、視覚的にも知らせていきたい
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4		オープン当初、地域住民を招待したがその後は行っていない。自治会の組織に加入し地域住民と交流を図っている	今後、地域住民を招待し、開かれた事業運営を図っていききたい

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4		緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に配布している	保護者への周知が十分に実施できていない現状があるため、今後は非常時のマニュアルを事業所内に提示し、来所した際にいつでも見ることができるようにしていく
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4		毎月、子どもたちと一緒に避難訓練を実施している	今後、地域の消防署、警察署の協力、アドバイスを頂きながらすすめていきたい
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4		契約時に子どもの疾病や服薬状況等を把握している。てんかんについては保護者からどのような時に、どのような状態になるのか聞き取りをし、対処法を職員で共通理解している。また保護者からてんかん時の動画も見せてもらっている。連絡先やその後の対応についても保護者と確認している	より詳細を把握できるようアセスメントツールの変更を検討する
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4		契約時にアレルギー反応の検査結果や保護者からの聞き取りを行い、除去食を確認している。アレルギー表を作成しいつでも確認できるところに貼っている。アレルギーがある場合は、一斉除去している	食事提供はない為、医師の指示書での対応ではないが、保護者からの聞き取りを行っている
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	2	2	終礼や職員会議でヒヤリハット事例について、共通理解を図っている	ヒヤリハット事例集として、今後作成していく
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4		職場内障害者虐待防止法研修冊子を使って読み合わせを行っている	チェックリストの作成、実施、虐待防止委員会の設置をする。定期的にチェックを行うことで改善、防止に取り組んでいく
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4		現在、身体拘束は行っていない。やむを得ず実施する場合は保護者への確認や説明なども確実にに行い支援計画に記載していく	今後、検証し必要がある際は、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載していく

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成 31年 月 日

事業所名 ソレイユキッズ津 Neo

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4		活動によって、広すぎる場合はパーテーションなどで区切っている	子どもによっては広すぎて落ち着かない様子が見られることもあるため、子どもの様子に合わせてスペースを作っていく
	2	職員の配置数は適切である	4		職員配置数は適切であるが、必要に応じて配置数を増やしている	職員配置数は適切であるが、日によって少ないと感じることもあるため、ゆとりのある職員配置数を確保していきたい
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	1	指導訓練室については、タイルカーペットを敷き詰めてあり大きい段差はない	2か所段差があるため、今後検討していきたい
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4		常勤・非常勤に関わらず定期的に週1回職員間で話し合いの場を設けている	よりPDCAサイクルに職員が参画できるよう週2回に増やしていきたい
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4		保護者アンケートより保護者の意向を把握し、業務改善に努めている	保護者アンケートだけでなく、送迎時、面談などからも保護者が意見を伝えやすい雰囲気を作ることでより以降を把握し、業務改善につなげていきたい
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4		ホームページで公開している	今後も年1回、アンケートを実施し、評価を公開していく
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	2		今後、検討していきたい
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4		週に1~2回、必ず内部研修、支援会議を行い、適宜外部研修にも参加し、専門性の向上に努めている	今後、より多くの外部研修に参加できるようにしていく
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4		相談支援専門員と連携を図り、子どもや保護者との面談を通して得られたニーズを分析し、放課後等デイサービス計画の作成を行っている	様々な情報を基に、子どもの主な課題に対する支援を、保護者と一緒に考えていく
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4		項目に分かれた標準化されたアセスメントツールを使用し、より子どもの適応行動の状況を把握できるようにしている	アセスメントツールを活用し、必要に応じて項目や活動の見直しを行い、個々に合わせた適切な支援へとつなげていく
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4		年間計画を立て、担当職員を中心にチームで、運動プログラムは1か月ごと、手先を使った活動は1週間ごとに立案している	ミーティングの機会を増やし、チームで話し合い、より良い立案ができるようにしている
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4		運動プログラムについては3週間変更し、残り1週はエアートランポリンを使った活動を行っている。手先を使った活動は、1週間ごとに内容を変えそれぞれの課題を決めて行っている	子どもたちの実態に応じたプログラムを設定し、経験を通して興味、関心の拡大へと繋げていきたい
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4		平日用プログラム、休日、長期休暇用プログラムを設定し、それぞれの課題を決めて支援している	更にきめ細やかな設定ができるよう、職員間で話し合っていく
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4		相談支援専門員との連携やアセスメントツールを活用し、児童発達支援計画を作成している	子どもの実態に応じて、個別活動、集団活動を組み合わせていく

	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4		利用する子ども、活動内容、支援の流れ、職員の役割分担の確認を行い、共通理解をしている	子どもの通所人数、活動内容に応じた職員配置、利用する教材を含め、打ち合わせを行っているが、全員の参加は難しいこともある ホワイトボードを活用して、情報共有をしている	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4		終礼にてその日の支援の振り返りや連絡事項などの確認を行い、職員同士情報共有しながら支援の記録もしている	支援の振り返り、子どもの姿、連絡事項など共通理解を深めているが、全員参加は難しい ホワイトボードを活用しながら情報共有を図っていく	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4		毎回支援記録を取り見直すことで、子どもの成長や取り巻く環境の変化に合わせて支援内容や方法を検討している	日々の支援記録を基に、会議などでの資料として活用している。今後も、児童発達支援計画の検証、改善のできる体制を継続していきたい	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4		定期的な面談を通してモニタリングを行い、支援の達成度や満足度などを把握し、支援の方向性の確認を行っている	保護者と、子どもの成長を確認するとともに、見直しをすることでより子どもの実態に沿った支援ができるようにしていく	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	2	2	一日のプログラムの中で、ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	地域交流については、なかなか交流が図れないため、今後交流を検討していきたい	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4		児童発達管理責任者がサービス担当者会議に参加し、利用計画書を基に他事業所と情報共有をしながら、サービス等利用計画の策定への情報提供を行っている	今後、子どもの状況に精通した担当職員なども一緒に参加することで、より一層の充実を図る	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4		在籍校に行き、送迎時での注意事項や下校時刻を聞き、顔写真の載せた職員一覧表やチラシなどを学校に渡している。行事予定など、迎えに行った際に直接聞いている	今後、より年間計画など詳しい情報を共有できるようにしていきたい	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている					
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4		保育所や認定こども園、幼稚園との間で、相互に見学に行くなど、支援内容の情報共有と相互理解を図っている	利用者全ての通所(園)先との間での情報共有ではないため、今後さらに、情報共有と相互理解を広げていきたい	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している			まだ該当者なし	今後、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合は、それまでの支援内容等の情報を提供していく	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4		他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関を見学したり、研修に参加したりして助言を受け連携を図っている	更に連携を深めていきたい	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	2	地域交流については、小集団での活動を主に行っているため、指導時間の中での実施は難しい	放課後児童クラブや児童館との交流、障がいのない子どもとの交流や、障がいのない子どもと活動する機会はまだないため、今後交流していきたい	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	2	参加可能な限り出席している	どのように参加できるかがわからないため、今後ネットワークを広げて参加していく	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4		連絡帳や送迎時に伝え合い、共有するように努めているが、あまり話せる時間がない時もある	今後共通理解ができるような時間が、設けられるよう努めていく	

	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4		家庭で取り組みやすい方法を保護者と一緒に考え、提供している 応用行動分析学を用いた支援、アンガーマネジメント(書式作成)、フローチャートによるSSTのシートの利用などにより家庭支援を行っている 今後、更に保護者向け勉強会の開催を検討していく	今後、勉強会や、研修などを計画、開催していきたい
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4		契約時、詳細につき説明を行っている	時々周知されていないと感じることがあるため、その都度丁寧に説明を行っていく
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4		定期的に面談を行い、保護者に対して相談及び助言を行っている	定期的に相談に応じてはいるが、子ども、保護者の様子によって必要と感じたときには適時行っていきたい
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	2	開所一年未満のため、まだ行っていない	今後、定期的な茶話会の開催を予定している
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4		苦情・相談窓口の詳細は、契約書の重要事項説明書に記載している 苦情・相談が寄せられた場合は、迅速かつ適切に対応している	対応については職員で共通理解を図りながらすすめていきたい
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4		行事予定は毎月カレンダーを渡し、活動内容は週に一度ノートに貼って伝えている	今後は定期的な会報の発行も検討していく
	35	個人情報に十分注意している	3	1	個々に個別ファイルを作成し、使用時以外は鍵付きの棚に保管することで外部に情報が漏れないように管理している 不要となった個人情報に関しては、適時シュレッダーにかけるなどの対応を徹底することで漏れないように取り組んでいる	個人情報の取り扱いについては、引き続き周知徹底を図っていく
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4		ノートを活用し、意思の疎通や情報提供を行っている	子どもにとってもよりわかりやすくするために、視覚的にも知らせていきたい
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	2	オープン当初、地域住民を招待したが、その後は行っていない 自治会の組織に加入し地域住民と交流を図っている	今後、地域住民を招待し、開かれた事業運営を図っていききたい
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に配布している	保護者への周知が十分に実施できていない現状があるため、今後は非常時のマニュアルを事業所内に掲示し、来所した際にいつでも見ることができるようしていく
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	2	2	毎月、子どもたちと一緒に避難訓練を実施している	今後、地域の消防署、警察署の協力、アドバイスを頂きながらすすめていきたい
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4		職場内障害者虐待防止法研修冊子を使って読み合わせを行っている	チェックリストの作成、実施、虐待防止委員会の設置をする 定期的にチェックを行うことで改善、防止に取り組んでいく
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4		現在、身体拘束は行っていない やむを得ず実施する場合は保護者への確認や説明なども確実に行い支援計画に記載していく	今後、検証し必要がある際は、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載していく
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	1	契約時にアレルギー反応の検査結果や保護者からの聞き取りを行い、除去食を確認している アレルギー表を作成しいつでも確認できるところに貼っている アレルギーがある場合は、一斉除去している	食事提供はない為、医師の指示書での対応ではないが、保護者からの聞き取りを行っている
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4		終礼や職員会議でヒヤリハット事例について、共通理解を図っている	ヒヤリハット事例集として、今後作成していく